



高齢者の暮らしを考える

高齢化が進展する中、地域住民の方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには多職種が相互に連携し、切れ目のない医療・介護サービスを提供していく仕組みが必要です。松阪市では、介護と医療などに関わる様々な職種の方たちが顔の見える関係を深め、地域包括ケアを推進する多職種勉強会を開催しています。今回は、これからの多職種連携の課題や想いについてお話を聞きました。



左/三重県松阪保健所 所長 植嶋 一宗さん(医師)
中/花の丘病院リハビリテーション科・地域連携室課長 木村 圭佑さん(理学療法士)
右/くろい歯科クリニック 院長 黒井 建志さん(歯科医師)



インタビュー

多職種勉強会について 教えてください。

木村さん

多職種勉強会では医師や看護師、歯科医師、薬剤師、歯科衛生士、ケアマネジャー、ホームヘルパー、リハビリテーション専門職など実に10職種以上の医療や介護にかかわる様々な業種の方々にご参加いただき、安心できる地域づくりをめざして活

動を行っています。当初は多職種間の交流ネットワークづくりが主な内容だったのですが、現在では勉強会の周知や活動が進んできたため次はそこから一歩踏み込んで、より専門的で実際の現場での事例を取り上げた勉強会を進めています。

黒井さん

一つの事例に対してそれぞれの専門職ごとの視点からの課題や意見があり、それ以外の業種と話し合うことで新たな発見、共通点に気づくことがあり、実際の支援において何か困ったこと、疑問に思ったことを気軽に多職種の方へ相談することで地域ケアの質の向上につながっていきます。この勉強会をつくったネットワーク、また他の専門職への理解を自分たちの現場のサポーターに生かしていきたいです。

勉強会を通じて、 地域づくりの取り組みを されているんですね。

植嶋さん

地域には生活されているエリアごとに医療や介護、福祉の窓口は複数存在し、そして個々での役割も分担されています。しかし、より質の高い在宅ケアを行うた

めには、その二つの役割を切れ目なくつなげ一人の人に対して連携のとれたサポートを行うことがより質の高い在宅ケアでは求められています。役割や立場が異なっていたり、困難な部分もあるのですが行政や医師会などが率先してこの活動に取り組んで頂くことで現場でのサポートの実現に近づくと考えます。

また多職種間だけではなく、保健所では管轄内のそれぞれの市や町の間でも連携を行えるお手伝いをさせていただきます。

黒井さん

医療や介護の支援が必要な方へ、ご本人やそのご家族様への負担が軽くなるよう地域の専門職のみんなのでその方やご家族の生活を支えていくことを一番の目標としています。ご家族様がどこへ相談していか分からないことも身近な窓口へ言っていただければ、すぐに専門職へつなげ、必要な支援を受けることができればいつでも住み慣れた地域で生活していくことができると思います。

そのためにも、お互いのより深い理解連携のとれる関係づくり、また現場のニーズをそれぞれの環境に反映できるよう今後もしっかり取り組んでいきたいと思っています。